

2012 年度の「子育てサプリ」を振り返って

講師 伊藤美佳

子育てサプリは、授業「子育て支援実践」履修学生を中心に企画・運営を行う、東洋大学ライフデザイン学部が運営する「地域の親子に対する子育て支援プログラム」です。今年度は 10 月から 12 月にかけて月に一度の割合で行いました。開催日当日は、履修学生に加え、ボランティアでお手伝いくださる学生さんたちや主任児童委員、元保育士といった地域の方たち、ライフデザイン学部全ての学科から教員の方たちにも協力いただきました。

今年の履修学生は、全員が保育所や幼稚園等での実習をまだ経験したことがない学年の学生たちでした。実習経験がある 3・4 年生の履修生がいる年とは違い、第 1 回目の子育てサプリは準備の段階から試行錯誤しながらのスタートでした。履修学生が企画する親子向けプログラムも、絵本の読み聞かせと歌を歌うだけで精一杯、子どもたちの受け入れもぎこちないような状態でした。

けれども、第 1 回目サプリ終了後の反省会で、教員やボランティアで参加してくれた先輩たち、ベテラン保育士の先生方、主任児童委員の方たちからアドバイスを頂き、学生それぞれも、子どもたちが楽しむためにはどうしたらいいのかということを実際に考え、一人ひとりが実践の反省を踏まえて次の活動へとつなげる気持ちを強く持ちました。

その一人ひとりの気持ちは、2 回目、3 回目と回を重ねるごとに、履修学生の姿に現れていました。徐々に子どもたちの姿を読み取ることを考えながら、一人ひとりが活動できるようになっていったのです。

最後の回である第 3 回目のサプリは、そのことが実を結んだかのように、本当に温かな雰囲気になりました。終わりの会で、履修学生たちが演じるブラックパネルシアターを食い入るように見つめる子どもたち、学生たちの歌に合わせて、リズムを取りながら身体を動かし、歌を口ずさんで楽しむ子どもたち、その子ども達の姿に思わず微笑む保護者の方たちと、会場が一体となりました。学生たちも、子どもたち、保護者の方たちと心を通い合わせるその一体感がとても楽しかったようで、本当に生き生きと会を進行していました。そしてその気持ちを、「私たちが成長できたよね」「子どもと心が通じ合った時は本当に嬉しかった」と、充実した笑顔で反省会の場で話してくれました。



私たち教員も、ボランティアで参加して下さった地域の方たちも、先輩学生たちも、その履修学生たちが成長した姿に、本当に嬉しい気持ちで一杯になりました。